

浜松市沿岸域 防潮堤整備

【説明資料】

平成25年2月14日

静岡県

【本日の説明内容】

(1) 第4次地震被害想定の中間報告

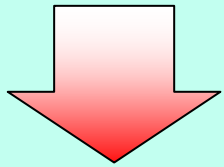
(2) 防潮堤の施工方法

(3) 工事の実施

(仮設備工事及び本体施工(試験)の着手)

第4次地震被害想定の方定スケジュール

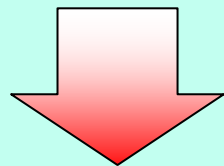
- **2012年2月** **被害想定作業チーム発足**



2012年6月11日 寄附に関する三者基本合意

2012年9月11日 着手式

- **2013年2月13日** **被害想定の中間報告**



⇒対策の方針(アクションプログラムの骨子)、
津波高の想定を公表

- **2013年6月頃** **第4次地震被害想定を公表**
⇒併せて、地域防災計画の改定
⇒新たな地震・津波対策アクションプログラムの公表

第4次地震被害想定における2つのレベルの地震・津波

第4次地震被害想定では、**2つのレベル**の津波高さを検討・公表する

◎レベル1 津波：

- 発生頻度は比較的高く、津波高は低いものの大きな被害をもたらす津波
- 海岸堤防等の整備の基準となる津波

◎レベル2 津波：

- 発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす最大クラスの津波

○静岡県第4次地震被害想定(案) 震源・波源モデル

| 区分 | 駿河トラフ・南海トラフ側 | 相模トラフ側 |
|-------------------------|--|---------------------------|
| 繰り返し発生する地震・津波 (レベル1) | 東海・東南海・南海地震等 (約100～150年に1度) ※中央防災会議2003年モデル等 | 大正型関東地震 (約200～400年に1度) |
| 最大クラスの地震・津波 (レベル2) | 南海トラフ巨大地震 (内閣府2012) | 元禄型関東地震 (約2300年に1度) |

※南海トラフにおいて次に発生する地震・津波が、8月29日に内閣府が公表した「最大クラスの地震・津波」であるというものではない。(内閣府報道発表資料から)

第4次地震被害想定の中間報告

平成25年2月14日の中間報告の内容

○津波高の想定等

→駿河トラフ・南海トラフ側のレベル1津波及びレベル2津波の津波高の推計結果

→駿河トラフ・南海トラフ側の地震の震度分布の検討状況

○被害・対応シナリオ想定

→第4次地震被害想定で行う「被害・対応シナリオ想定」の骨子

浜松市の津波高

(単位:m)

| 市区町名 | レベル1の津波 | | | レベル2の津波 | | | |
|-----------|---------|----|--------------|---------|----|-----------|----|
| | 3連動 | | 【参考】 3次想定 | 静岡県中間報告 | | 8/29内閣府公表 | |
| | 最大~最小 | 平均 | | 最大 | 平均 | 最大 | 平均 |
| 浜松市 西区 | 7~1 | 2 | 5.6~1.5 | 14 | 3 | 14 | 4 |
| 浜松市 南区 | 7~5 | 6 | 5.1~3.4 | 15 | 13 | 16 | 14 |

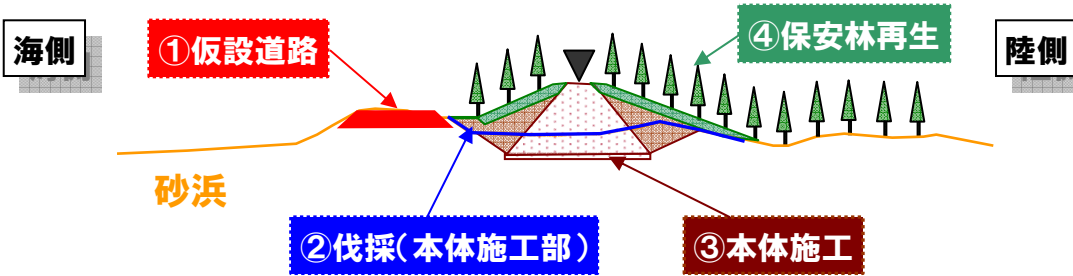
レベル2の津波高について
大きな違いはない

防潮堤の施工方法(全体)

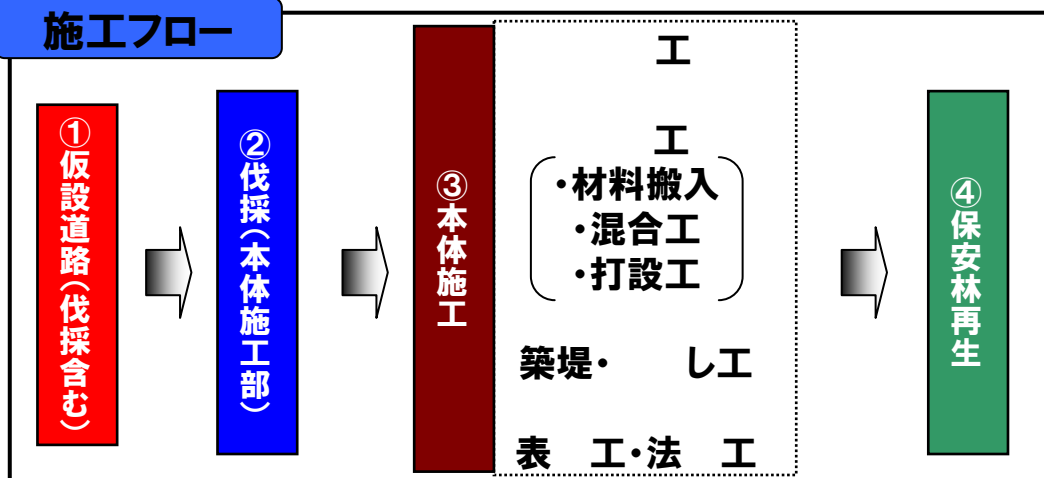
平面図



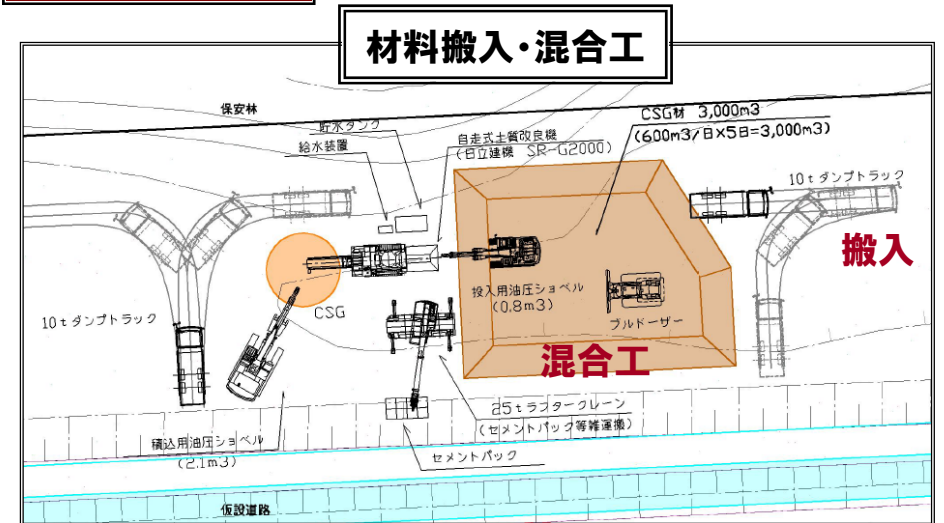
標準横断面図



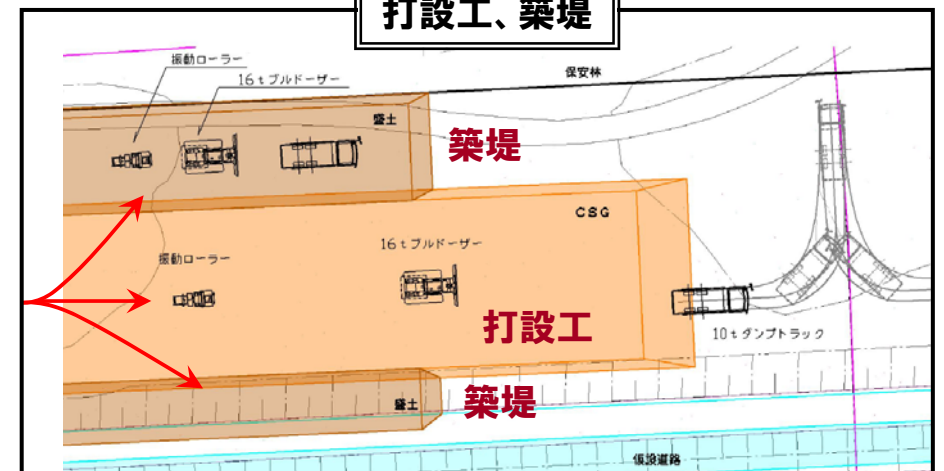
施工フロー



本体施工の詳細



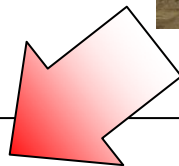
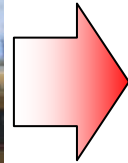
打設工、築堤



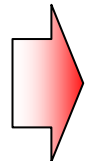
防潮堤の施工方法（本体施工）

工

材料搬入・混合工



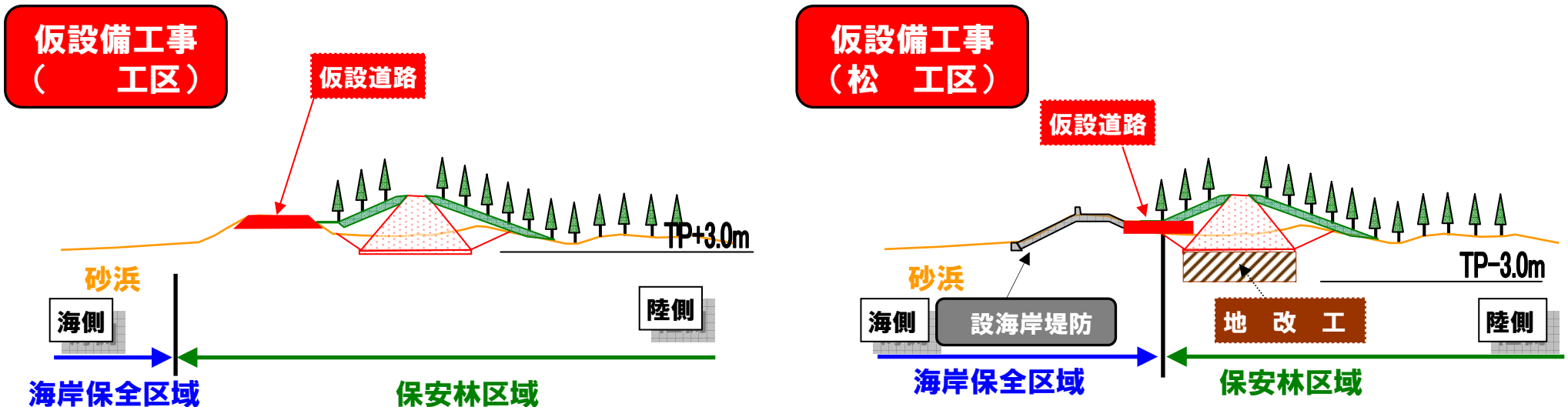
打設工



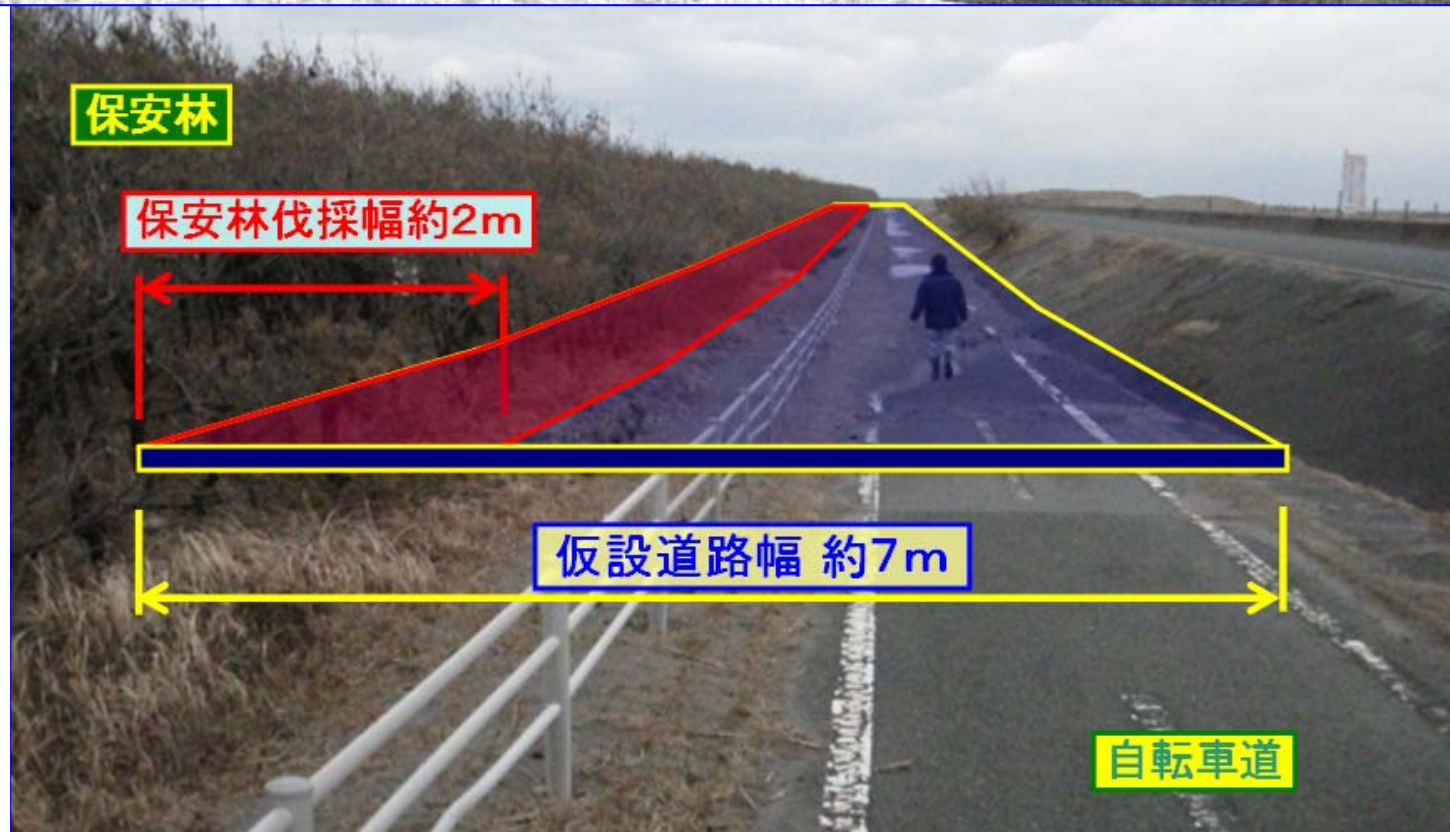
工事の実施



- ◇砂丘での基礎工のノウハウを蓄積し、円滑な本体工事の進捗を図るため、H25年度当初予算により、中田島砂丘の両側で本体施工(試験)を2箇所実施する。
- ◇ 本体施工(試験)に必要な仮設備工事が梅雨期までに完成するよう、H24年度補正予算により年度内に発注する。



仮設道路施工イメージ（松島工区）



仮設道路施工イメージ（工区）

